

令和7(2025)年度 第1回食育推進会議・市内食育推進連絡会議 意見反映シート

◎第1回食育会議の御意見

○市内食育推進連絡会議の意見

◇行動目標/市民の取組

◆取組方針/柏崎市の取組

	委員から出された御意見	計画書の 該当ページ	計画書への反映点/取組方法
共通	◎最終指標でE評価だった項目を次期計画で優先的に取り上げた方が 良い。健康課題から脳血管疾患の施策が考えられ、その要因となる 高血圧や減塩や野菜摂取、栄養バランスのとれた食事に関する取 組と結びつけた方が良い。	【9章】 148 P	・「食育に関心を持っている人の増加」「野菜のおかずを一日三食食べる人の増加」「塩分 を控えた食事を心がけている人の増加」については第3次食育推進計画の最終評価ではE評 価であるが、最終評価でアンケートを実施しないことから評価指標・目標には設定せず、各 事業や取組の進捗を把握することで、施策の評価の目安とする。 ・「主食主菜副菜がそろった食事が1日2回ある割合」については第3次食育推進計画には評 価指標はなかったが、上記と同様に取組をしていく。
	◎現状データにある「主食・主菜・副菜がそろった食事が一日2回以 上ある人の割合」は評価指標の項目にはないが、今後の展開を示し た方が良い。	75 P	
	◎薄味や主食・主菜・副菜に関すること、適正体重については、子ど もの時から大人までつながる指標なので取り上げた方が良い。	【9章】 148 P	
	◎無関心層への働きかけ方について等、食育の関心度をどのように 評価するのか。	【9章】 148 P	
	◎朝食について、手間をかけずに簡単に準備できる具体的な提案が あるとよい。	79 P	◆ <u>朝食の摂取をはじめとする、望ましい食生活の実践を推進します</u>
	○健康みらい柏崎21の各計画の方向性に「心の健康」が多くでて くるが、「心」に共通するねらいがあるのか。「心」を全面に押し 出すと評価することが難しい。 ○心の健やかさに関する指標が数値化できると良い。12年間で明確 になれば良いのではないか。		・体と心は一体的に取り組んでいくものであり、睡眠や休養が取れているかで自殺との関連 もある。食育は体だけではなく心も育てていくものなので、評価指標はなくても推進してい かなくてはならないものであると考える。
乳 幼 児 期	◎保育園では「食べる力」を育むことを大切にしている。幼児期に は、調理体験や食材に触れる活動を通して、味・色・香り・音など 五感が刺激され、食への興味関心が広がる。	78 P 79 P	◇早寝・早起き・朝ごはんの習慣を身に付けます ◇発達段階に応じた調理形態で、噛む・飲み込む力を付けます ◆ <u>家庭を中心に、幼稚園・保育園、学校、地域等が連携し、食育を推進します</u> ◆「早寝・早起き・朝ごはん」運動を推進し、生活リズムの確率を支援します ◆幼稚園・保育園を通じて、子どもたちの食への関心と意欲を育てます
	◎十分に遊び、規則的に食事をとる経験を積むことで「おなかやす く感覚」が育ち、生活リズムの基礎ができる。野菜の栽培や収穫、 簡単な調理の手伝いを通じて、苦手な食材も少しずつ受け入れられ るようになり、食の幅が広がっていく。	78 P 79 P	
	◎園の課題では、朝食欠食、不規則な生活、孤食が挙げられる。朝 食を食べない子は元気がなく、イライラや攻撃的な行動が見られる ため、朝食の大切さを感じる。	78 P 79 P	
	◎不規則な生活を送る家庭も多いことから、栄養バランスの整った 給食の提供は保育園の大切な役割だと思う。	78 P 79 P	
	◎咀嚼が弱い子どもには、月齢より離乳食の段階を下げて慣らし ている。「よく噛むこと」が消化や歯・口の健康に大切である。	78 P	
	◎乳幼児期には、よく噛むことで口輪筋が発達し、口の閉まりが良 くなる。食べ物を小さく切りすぎず、噛みとれる大きさに調理する ことが大切である。	79 P	
	○乳幼児期で食べ物を小さく切り過ぎず、噛みとれる大きさに調理 することが大切であり、発達段階に応じてお口の機能をよくするた めなら「発達段階に応じて食べやすく調理をし」の「食べやすく」 を削除したほうが良い。	78 P	・「発達段階に応じて食べやすく調理をし、噛む・飲み込む力を付けます」の表現を「◇発 達段階に応じた調理形態で、噛む・飲み込む力を付けます」に修正する
	○「発達段階に応じて食べやすく調理をし」の文言で「自分で調理したも の」だけでなく、市販のものを利用しても良いと考える。「発達段階に 応じた調理形態で」という表現が良いのではないか。		
	◎友達と一緒に食べることで楽しさを知り、安心感や信頼感が育ま れるとともに、食事のマナーを学ぶ機会にもなる。	84 P 85 P	◇家族や仲間との食事を通じて、食の楽しさや食への感謝の気持ちを育みます ◇家族みんなで一緒に、食事をとり、食べる楽しさや、食への興味を育みます ◇食事のあいさつや姿勢、箸やスプーンの使い方など、基本的なマナーを身に付けます ◆ <u>家族や仲間との食事を通じて、食の楽しさを実感し、食事の知識やマナー、感謝の心を育 てます</u> ◆共食を通じて食の楽しさや食事のマナーを伝えることの大切さを普及啓発します
学 童 ・ 思 春 期	◎給食やおやつサンプル提供、レシピ配布、調理体験の紹介など を積極的に保護者へ情報発信をしたい。	85 P	◆ <u>多様な機会を活用して、食に関する情報発信や食育の普及・啓発に取り組みます</u> ◆幼稚園・保育園や学校、地域、食のイベント等で「かしわざきの食育5か条」「毎月18日19 日は”いい歯・食育の日”」を普及啓発します
	◎学校では「早寝・早起き・朝ごはん運動」に取り組み、栄養教諭 による食事バランスやおやつの適量についての指導を行っている。 家庭科の調理実習では自分で食事を作る力を育み、食への関心や自 立を養うことにつながっている。	78 P 79 P	◇早寝・早起き・朝ごはんを毎日の習慣として実践します ◇食事のバランスや間食の適量を理解し、健康的な食生活を心がけます ◇自分で食事を作る力を身に付け、食への関心と自立を育みます ◆「早寝・早起き・朝ごはん」運動を推進し、健全な食習慣の定着を目指します ◆栄養教諭等を中心とした食に関する指導を充実させ、子どもたちの食への理解を深めます ◆給食時間を活用して食育を実施し、実体験を通じて食の大切さを学びます。

	委員から出された御意見	計画書の 該当ページ	計画書への反映点/取組方法
学 童 ・ 思 春 期	◎習い事等で忙しい子どもでも栄養バランスを確保できるよう、具体的な工夫や提案ができると良い。	78 P	◇早寝・早起き・朝ごはんを毎日の習慣として実践します ◇食事のバランスや間食の適量を理解し、健康的な食生活を心がけます
	◎高校では食に関する学びの機会が少ないことを感じている。食に向き合う時間の大切さを実感した。家庭にも食の大切さを伝えていきたい。	79 P	◇自分で食事を作る力を身に付け、食への関心と自立を育みます ◆「早寝・早起き・朝ごはん」運動を推進し、健全な食習慣の定着を目指します ◆栄養教諭等を中心とした食に関する指導を充実させ、子どもたちの食への理解を深めます ◆給食時間を活用して食育を実施し、 <u>実体験を通じて食の大切さを学びます。</u>
	◎間食＝おやつではなく、食の細い子どもがエネルギー補給のために間食を必要とする場合もあるため「おやつ」の表現を「間食」に言い換えた方が良い。	78 P	・学童期・思春期の市民の取組の「食事のバランスやおやつの適量を理解し…」の「おやつ」の文言を「間食」に変更する ◇食事のバランスや間食の適量を理解し、健康的な食生活を心がけます
	◎評価指標の食育授業の時間数について、目標が漠然としているので、現状を維持するのか増加するのか方向性を示してほしい。	83 P	・学校の現状から鑑み目標値の「増加」は困難であると考えられるため、中間評価、最終評価とも「維持」とする
	○評価指標の朝食の欠食率の目標値が0 %なのは達成が厳しいと思うがねらいがあるのか。	77 P	・小学6年生については、国・県の目標値に合わせ0%とした。中学3年生については、国・県の目標値はないが、小学6年生と同様とした。
青 学 社 ・ 年 思 期 ／	◎小中学生の朝食の欠食率の目標値が元々低い状況を0にするより、高校生や30.40代へ親世代を目標項目にしてはどうか。	77 P	・県の指標と同様に20・30代を評価指標に設定した。そのため設定計画書への反映は無しとする
青 年 期 ・ 青 壮 年 期	◎健康寿命の延伸が目標であるなら市民の取組の青壮年期「ゆとりある生活を心がけ、、、」の表記を生活習慣病予防の視点で記載した方が良い。	78 P	・「ゆとりある生活を心がけ」の文言を削除し、生活習慣病予防の視点の啓発を主眼に置き、「◇毎日朝食をとる習慣を身に付けます」とする
	◎青壮年期にフレイル予防に関する記載を盛り込む必要があるか。評価指標にある「毎日、間食・甘い飲み物を摂取する人の割合」を市の取組に盛り込んだ方が良いのではないか。	79 P	・ライフコースアプローチの視点から、高齢期になる前の世代の青壮年期からの啓発が大切である ・「◆高齢期を見据えフレイル（虚弱）予防に関する知識を広めます」と表記を変更する。 ・間食・甘い飲み物を摂取する人を減らす取組については市の取組に掲載はせず、「◆バランスの良い食事や適正体重の維持に関する情報提供を行い、健康意識を高めます」の表現に包含させる
	◎企業では健康に関する意識には差がある。長期の計画なため職場で継続的に健康に関する指導をする必要があると思う。	78 P 79 P	◇自分の適正体重と必要な食事を知り、健康管理に役立てます ◆企業や事業所と連携し、職場での健康講座や食育活動を展開します
	◎青壮年期は食生活によって健康を崩すことの理解が十分でないため、関心の薄い人にどう伝えるかが重要である。	78 P	◇食と健康に関心を持ち、正しい知識を身に付けます
高 齢 期	◎介護を必要とする人、介護者に対して栄養に関する知識を持つことの重要性を伝える視点が大事である。	79 P	・「フレイル（虚弱）予防を目的とした講座を開催し」の表記を「◆フレイル（虚弱）や低栄養予防・改善を目的とした講座や個別相談を実施し、健康維持や食生活改善への意識を高めます」と、計画書を修正
	○「介護者に対して栄養に関する知識を持つことの重要性を伝える視点が大事である」において、知識を持つことの重要性を伝えるという視点は難しいと感じる。「知識を与える」のではなく「自らが知識を得るように促しましょう」というような言い方が良いのではないか。		
	◎高齢期においては歯の健康が保たれないと食事が困難となるため、定期的な歯科健診や日々の歯磨きの推進や啓発を進めることが重要である。	78 P	◇歯の健康を保ち、よく噛んでおいしく食べられる状態を維持します ※第三次歯科保健計画において取組を推進する
そ の 他	◎県では、「災害時でもバランスのとれた食品を備蓄できる割合」を目標指標に入れている。この視点も入れてほしい。	82 P 84 P 85 P	◆ <u>非常時に備えた食料品の備蓄を促進します</u> ・「◆非常時でも栄養バランスがとれる食料品の備蓄を普及啓発します」の一文を柏崎市の取組に追加する ◇非常時に備え、日常の食品を使いながら補充するローリングストック を実践します
	○非常時に備蓄をするのは特別なものではなく普段から食べているものなので、「非常時に備えて食品を計画的に備蓄し、、」の表現を「非常時に備えてローリングストックで備蓄する」に変えたらどうか。		
	◎子どもたちに柏崎の郷土料理が十分に浸透していないことが感じる。地域の食文化への理解が十分でない状況である。学校給食で月1回提供するなど、統一した仕組みを市全体であると良い。	85 P	・市農林水産課、教育総務課との協議をし、「柏崎市第四次食の地産地消推進計画」に「郷土料理の学習機会の提供、料理講習会を開催する」について明記することとなった。 ・柏崎市第四次食の地産地消推進計画の＜数値指標＞に「学校給食で郷土料理の献立を年8回以上提供する」の指標を追加する。
	◎評価シートの食育と地産地消の分野の棲み分けについて、基本方針1は食育、基本方針2・3は地産地消に位置づくとして理解できるが郷土料理はどちらに位置づくるのか。	【9章】 149 P	・計画書への反映は無しとする。
	○食育5か条の5分の1を魚が占めており、さらに「し」で海の幸にも触れているので、食材には野菜や果物や米等がある中で魚の話題が占める割合が多いように感じる。おさかな普及協議会でも魚食の推進や水産物の消費拡大に取り組んでいるので有難いが、計画書の中にも魚のワードが触れられていれば、唐突な感じが抑えられるかと思う。	86 P	・かしわざきの食育5か条は第3次食育推進計画から掲載しているが、子どもや若い世代の魚離れが懸念されていたため、あえて取りあげた経緯がある。 ・現段階では5か条の内容の変更をする予定はないため、計画書の77 Pの「主食」「主菜」「副菜」を説明するのコラムで「魚」のイラストを使って主菜を説明し、魚の摂取を促す。